

JtCA

一般財団法人テクニカルコミュニケーター協会

Frontier

ジャパンマニュアルアワード2019結果報告



第14号
2020年



一般財団法人
テクニカルコミュニケーター協会

Frontier

2020年 第14号

CONTENTS

特集

ジャパンマニュアルアワード2019結果報告 … P.02

はじめに … P.02

本年度のジャパンマニュアルアワード概要 … P.05

応募状況 … P.06

一次審査 … P.07

二次審査 … P.08

三次審査 … P.10

表彰式 … P.10

審査結果 … P.12

入賞マニュアル解説 … P.14

最終審査委員コメント … P.35

マニュアルオブザイヤー 2019受賞会社訪問

カシオ計算機株式会社 … P.41

ジャパンマニュアルアワード2019結果報告

2019年8月8日、TC協会ホームページにて、ジャパンマニュアルアワード2019の結果が発表されました。今号の特集では、本年度のジャパンマニュアルアワードの概要をまとめ、経過を振り返るとともに、入賞した作品に対する二次審査委員の解説と選考委員からのコメント、マニュアル オブ ザ イヤーを受賞された皆様からのコメントを紹介いたします。

はじめに

ジャパンマニュアルアワードは、2019年現在、消費者庁および国民生活センターの後援を得ている、日本で唯一の使用情報のコンテストです。使用情報の供給者であれば誰でも応募でき、一次審査、二次審査、三次審査および最終審査を経て優秀な作品には、「マニュアル オブ ザ イヤー」、「優秀賞」、「特別賞」が贈られます。また、全応募作品に対して、IEC 82079-1: 2012を基に作成した独自の評価表に基づく採点結果と、一次審査委員によるコメントが送付されます。これが理由で使用情報の改善目的でコンテストを利用する応募者も見受けられます。

一次審査は一次審査委員により、上記評価表を使用して応募作品単位で行われます。二次審査はジャパンマニュアルアワード実行委員会において部門ごとに応募作品すべてを相対的に見て行われます。三次審査および最終審査は受賞候補作に対して学識経験者や消費者代表からなる選考委員によって行われます。

一次審査委員には、3年以上の実務経験者（使用情報の企画・設計、デザイン、ライティングのいずれかを経験）で、使用情報の評価に関心のある人であって、10時間の審査委員講習を受けたものなることができます。（ジャパンマニュアルアワード実行委員になれば無料で講習を受けることができます。実行委員の募集は例年11月末から12月中旬に

行われ、JTCA会員で上記能力があれば実行委員になることができます。）

毎年、結果報告書を発行し、日ごろマニュアル制作に携わっている方々がこの報告書から何かを感じ取り、今後のマニュアル品質や制作技術の向上に役立てていただけるよう取り組んでいます。

なお、本年度の応募作品の中から優れた作品を紹介するサンプル集をTC協会ホームページで公開しています。こちらにもぜひアクセスしてください。
http://www.jtca.org/tc_award/index.html

■ ジャパンマニュアルアワード2019によせて

テクニカルコミュニケーター協会会長 綿井 雅康

本年のマニュアルアワードも、ご応募いただいた会員企業の方々、および運営と審査を担われた方々のご理解ご協力により、充実した成果をあげることができました。ここに改めて感謝申し上げるとともに、各賞を受賞なさった皆様にはお祝いを申し上げます。

応募される方々は、マニュアル オブ ザ イヤーを頂点とした本アワード各賞への受賞を目指されていると存じます。しかしながら、本アワードに応募した時点で、本アワードが目指す目標の半分は達成されているのではないかと考えています。それは、マニュアルの開発企画や改善の意図を明確にしつつ、企画・改善の工程に取り組み、その成果を検証なさった上で応募されていると推測するからです。例え受賞に至らなくても、企画制作や改善のプロセスを客観的に振り返り確認する作業こそが、品質向上の基礎力を高めることにつながると存じます。来年度も、一つでも多くの作品が応募されることを期待する次第です。

さらに10月に開催された京都シンポジウムでは、マニュアル オブ ザ イヤーの候補となった5作品に、プレゼンテーションを披露していただきました。プレゼンテーションを通して、制作・改善のプロセスをリアルにご報告いただいたことに深く感謝申し上げます。報告いただいた内容は、本協会の全会員が共有すべき有用な情報だったと存じます。選考のためのプレゼンテーションというより、TC業界全体で共有していく場になっていると感じます。

今後、本マニュアルアワードは、マニュアルの品質向上に資するだけでなく、製品・サポート情報に関する提供のあり方を、さらに模索していく場になればと存じます。

■ 2019年のジャパンマニュアルアワードを振り返って

実行委員長 遠藤 幸夫

本年のジャパンマニュアルアワード(旧 日本マニュアルコンテスト)では、以下の改善/変更を実施しました。

- ・名称をマニュアルコンテスト⇒ジャパンマニュアルアワードに変更したこと。
- ・部門を「一般」「産業」とし、従来の業務部門を一般部門に統合したこと。
- ・従来の「最終審査」を「三次審査」とし、MOY選考会を「最終審査」としたこと。
- ・MOY候補作品に対して「MOYノミネート賞」を授与したこと。
- ・二次審査を2日連続で実施することにより、審査時間の増加および効率アップを実現したこと。
- ・TCシンポジウム(京都)においても展示会場におけるツアー説明会を実施したこと。
- ・学生審査をトライアルで実施したこと。

これら大小の改革・改善を背景に、下記の流れで運営を進めました。

- ・1～4月：実行委員(=審査委員)への講習会
第1回：マニュアルとは何か
第2回：IEC82079-1を中心とした国際規格
第3回：評価表の見かた、使いかた
第4回：実践形式で評価と解説
第5回：評価レビューの書き方
- ・5月：一次審査
- ・6月：二次審査(受賞候補の選定)×2日連続
- ・6月下旬：学生審査(トライアル)
- ・6月末日：三次審査(受賞作品の確定、MOY候補作品の選定)

- ・8月：TCシンポジウム東京にて表彰式、MOY候補作品の発表、展示会場におけるツアー説明会
- ・10月：TCシンポジウム京都にて最終審査（MOY選考会）、展示会場におけるツアー説明会
- ・11月：総括（サンプル集の作成など）

本年で特に良かった点として、まずは二次審査を2日連続で実施したことでしょう。昨年までは、1回目と2回目とで日程間隔をとっていたのですが、今年は初日午後から2日目夕刻まで、連続1回でやり切りました。そのおかげで、集中力が持続し審査の精度が上がったことや、日程の短縮になったことで一次審査の時間的余裕ができたことなどのメリットがありました。

次に、シンポジウム展示会場におけるツアー説明会を、東京のみならず京都でも開催できたことも成果でした。ここで印象的だったのは、東京にせよ京都にせよ、オーディエンスの皆さんは非常に熱心に、かつ静かに説明を傾聴くださったことです。説明する側としては、もっと気軽に、審査のウラ話(?)も含めてフランクにお話する想定だったのですが、予想以上の熱心さで聞いてくださるので、説明内容のブラッシュアップを図らなければ、と思ったほどです。いずれにせよ、ご来場くださった皆様、ありがとうございました。

もう1点、実行委員（＝審査委員）の応募資格も思い切って変更し、シンポジウム京都開催で早速ポスター展示しました。従来の応募資格に敷居の高い要素が含まれていたのをとり除くことで、より多くの人に応募して欲しく考えているからです。この中で、実行委員（＝審査委員）になるメリットとして、以下4点を挙げました。

- ・審査方法を覚えることで、良いマニュアルを作るためのポイントを学べます。
- ・応募作品に触れることで、制作トレンドをつかめます。

- ・講習会を通じて、使用情報に関する国際規格の基本を学べます。

- ・審査時に応募用紙を読み込むことで、マニュアル企画の重要性が学べます。

これら4点をメリットとして感じていただける方は、是非ともジャパンマニュアルアワード実行委員会2020に応募くださいますよう、お待ちしております！

最後に、本年も2名の副実行委員長はじめ、皆様の多大なご協力の上で運営を進められました。誌上を借りて厚く御礼の意を表明したいと思います。ありがとうございました。

本年度のジャパンマニュアルアワード概要

■各部門のまとめ

シンポジウム展示パネルから転載。

● 一般部門

今年の一般部門では、従来の業務部門と統合したことに加え、媒体による枠も撤廃することで、全媒体の使用説明を総合的に審査する方向へ舵をきった。その想定どおり、複数媒体による応募数が非常に増え、特に紙マニュアルをポータルに、そこからQRコード経由でWebマニュアルに誘導する方式が、全35作品のうち10作品（紙+画面で見るマニュアル=9点、および画面で見るマニュアルのみを審査対象とした3作品のうち1点）を占めた。結果的に、画面で見るマニュアル（動画やHTMLなどの電子マニュアル）の応募点数が、昨年の2点⇒12点と大幅に増えた。このことは、使用説明のWeb化がトレンドになってきたことを示していると言えよう。これにより、媒体に応じた情報の配分やユーザーの情報取得の利便性が、より良くなっていくことを期待したい。

そのほか、施工説明書が9作品と、例年になく多かった点も今年の特徴といえる。この分野では、熟練者だけでなく経験の浅い初心者レベルの作業者にもわかりやすく伝えようとする傾向が年々強まっており、今年もその傾向が強く感じられる年となった。IEC82079に記載されている「一般の人にも理解できるように」との要求に、各メーカーが対応してきた証左といえる。

● 産業部門

産業部門の本年度の応募は14作品であり、昨年より2点増加した。

昨年までは紙マニュアルの応募がほとんどであった。本年度も紙が多いことに変わりはないが、動画マニュアルや動画サイトへのナビゲーションを持つマニュアル、さらにWebマニュアルの応募があったことが時代の流れを感じさせる。動画マニュアルは惜しくも受賞を逃したがWebマニュアルは企画賞と安全賞を受賞した。Webマニュアルはユーザーの使用環境を考慮した上でメディアを選択しており、使用情報の国際規格IEC/IEEE 82079-1: 2019の要求をも満たす、時代を先取りした使用情報である。今まで紙が中心であった産業部門がインターネット経由の情報提供にも向いていると思わせる結果であった。紙マニュアルからは優秀賞が3作品選出され、一般部門の紙マニュアルに勝るとも劣らない作品があり、応募した企業の研鑽と努力が垣間見られる。

来年度はさらに意欲的な作品が応募されることを期待したい。

応募状況

■ 応募点数 (総数49点)

一般部門	紙マニュアル	……………	23点
一般部門	画面で見るマニュアル	………	3点
一般部門	紙+画面で見るマニュアル	…	9点
産業部門	……………		14点

■ 応募会社 (五十音順)

アズビル株式会社	株式会社ミットヨ
エプソンアヴァシス株式会社	三菱電機株式会社
LG Electronics Inc. (LG エレクトロニクス)	株式会社メニコン
オリンパス株式会社	ヤマハ株式会社
カシオ計算機株式会社	リコークリエイティブサービス株式会社
株式会社ガスター	YKK AP株式会社
キヤノン株式会社	
キヤノンメディカルシステムズ株式会社	
コニカミノルタ株式会社	
ダイキン福祉サービス株式会社	
TOTO株式会社	
株式会社バッファロー	
パナソニック株式会社	
パナソニックエコシステムズ株式会社	
パナソニックサイクルテック株式会社	
パナソニック ライフソリューションズ クリエイ ツ株式会社	
株式会社PFU	
日置電機株式会社	
株式会社富士通ゼネラル	
株式会社堀場製作所	
株式会社 牧野フライス製作所	

一次審査

■ 審査基準

使用説明の国際規格IEC 82079-1: 2012に対応した評価基準で審査を行いました。一般的なチェックリストは使用せず、ジャパンマニュアルアワード委員会が独自に作成した評価表と呼ばれるシートを使用して採点しています。応募分野により、またマニュアルの性質により、チェックリストでは当てはまる項目と当てはまらない項目の違いが顕著になる場合があります、相対的な評価が難しくなる場合があります。このような場合、チェックリストを使うと評価結果にばらつきが出て、公正な評価が難しくなる恐れがあるため、より柔軟性のある評価表を使用しています。

■ 審査方法

審査委員はジャパンマニュアルアワード委員とジャパンマニュアルアワード実行委員です。一冊のマニュアルにつき3～5名の審査委員が審査しました。なお一部のマニュアルについては出張審査を行いました。

■ 講習会

ジャパンマニュアルアワード実行委員になった人には、評価基準と評価表の使いかたを学ぶために10時間の講習を受けていただきました。

講師：ジャパンマニュアルアワード委員

遠藤 幸夫

清水 義孝

徳田 直樹

二次審査

■ 審査方法

審査委員を部門ごとのグループに分け、一次審査結果に基づき相対評価を行い、その妥当性を検討した後、審査委員全員で最終的な妥当性を検討しました。

● ジャパンマニュアルアワード委員 (五十音順)

<委員長>

徳田 直樹 一般財団法人 テクニカル
コミュニケーター協会
副評議員長

<委員>

遠藤 幸夫 ヤマハ株式会社
嶋田 正裕
清水 義孝 株式会社クレステック
瀬戸 大地 株式会社クレステック
根本 隆志 キヤノン株式会社

● ジャパンマニュアルアワード2019 実行委員 (五十音順)

<実行委員長>

遠藤 幸夫 ヤマハ株式会社

<実行副委員長>

白木 亮 マツダエース株式会社
田崎 里枝 PFUテクニカル
コミュニケーションズ株式会社

<実行委員>

加藤 大理 YAMAGATA株式会社
金田 竜司 アイリスオーヤマ株式会社
工藤 亜望 TOTO株式会社
鈴木 裕一郎 株式会社日立インフォメーション
エンジニアリング
武富 智之 螢印刷株式会社
田中 英一 キヤノン株式会社

築島 貴子 YKK AP株式会社
土屋 崇 株式会社シイエム・シイ
都築 行博 岡村印刷工業株式会社
樋口 史代 パナソニック株式会社
平山 裕子 パナソニック株式会社
廣瀬 敏之 株式会社ガスター
前田 雅徳 キヤノン株式会社
間島 伊都子 株式会社モダン

● ジャパンマニュアルアワード2019 産業機器部門分科会 (五十音順)

<主査>

久保 達昭 株式会社ハル

<実行委員>

梯 珠美 エスペック株式会社
小林 智 株式会社SCREENクリエイティブ
コミュニケーションズ
杉本 弥生 株式会社堀場製作所
橋本 玲子 村田機械株式会社
林 みのり 株式会社堀場製作所
福田 健治 螢印刷株式会社
水口 実 株式会社情報システム
エンジニアリング
山田 光司 パナソニック株式会社

■ 大学生による審査のトライアル

本年度はトライアルとして大学生による審査を実施しました。

昨年のTCシンポジウムに参加いただいた大学で、TC領域に隣接する研究をされている研究室に協力をお願いしました。

二次審査で受賞候補となるマニュアルを対象に（ただし産業部門は対象外とした）、研究室単位で審査いただきました。

各研究室が明確な観点（メンタルモデル、ユーザビリティ、UX、デザイン、ペルソナなど）を持って審査に当たっていただけました。有益な審査結果が得られたと判断できたため、審査結果を選考委員である千葉工業大学 安藤教授と協議し三次審査に持ち込み学生賞として表彰することとしました。

来年度以降も継続していく方向で協議中です。

● 審査対象マニュアル

一般部門 13 作品（受賞候補 10 作品 + 奨励賞候補 3 作品）

● 参加校と参加人員

- ・ 京都女子大学 山岡研究室 参加 4 名（大学院生 2 名、4 年生 2 名）
- ・ 千葉工業大学 安藤研究室 参加 15 名（全員 4 年生途中退出あり）
- ・ 常葉大学 安武研究室 参加 4 名（全員 4 年生）

● 審査過程

1. JMA の応募マニュアルについての説明：30 分
2. 個人による審査：2 ～ 3 時間
3. 合評による審査：1 ～ 2 時間



三次審査

■ 審査方法

二次審査を経て各部門の上位マニュアルを、有識者による選考委員で審査しました。

● 選考委員（五十音順）

安藤 昌也	千葉工業大学	先進工学部	教授
市川 美知	産業能率大学	情報マネジメント学部	兼任講師
大村 宏之	一般社団法人	日本食品機械工業会	事業部 部長
河村 真紀子	主婦連合会		常任幹事
鈴木 弘彦	独立行政法人	国民生活センター商品テスト部	課長補佐
宗林 さおり	独立行政法人	国民生活センター理事	
徳田 直樹	一般財団法人	テクニカルコミュニケーター協会	副評議員長
長田 敏		製品安全コンサルタント	
山根 香織	主婦連合会		常任幹事
綿井 雅康	一般財団法人	テクニカルコミュニケーター協会	会長
	十文字学園女子大学		副学長（人間発達心理学科 教授）

表彰式

表彰式はTCシンポジウム東京開催および京都開催の会場で実施しました。

東京会場では、受賞作品の関係者34名が出席し、奨励賞、特別賞、優秀賞の表彰状と盾が会長および実行委員長から授与されました。さらに、会長からはマニュアル オブ ザ イヤーにノミネートされた5作品が発表され、会場の約100名の参加者から大きな拍手が送られました。また、表彰式終了後に開放された壇上は、受賞作品の関係者による記念写真の撮影で大いに賑わいました。

京都会場では、マニュアル オブ ザ イヤーにノミネートされた5作品（5社）のノミネート賞の表彰、ならびにプレゼンテーションが行われました。プレゼンテーションは1作品10分という限られた時間ながら、各社とも作品のコンセプトや取り組みなどが情熱的に語られており、白熱したものになりました。プレゼンテーションの終了後、選考委員による別室での討議を経てマニュアル オブ ザ イヤーが発表されると、会場は大いに盛り上がり、受賞作のみならずノミネート賞作品の関係者にも惜しみのない拍手が送られました。

■ 式次第

● 東京開催

1. テクニカルコミュニケーター協会 綿井会長 挨拶
2. 独立行政法人 国民生活センター 商品テスト部 鈴木弘彦様 挨拶
3. ジャパンマニュアルアワード 2019 実行委員会 遠藤実行委員長による経過報告
4. 受賞作品表彰（賞状、盾の授与）
5. マニュアル オブ ザ イヤー ノミネート作品の発表

● 京都開催

● 第一部（ノミネート作品の表彰、プレゼンテーション 応募会社名の五十音順）

1. マニュアル オブ ザ イヤー ノミネート賞表彰（賞状の授与）
2. ノミネート作品プレゼンテーション（応募会社名の五十音順）
 - (1) LG Styler 取扱説明書／設置ガイド／リフレッシュガイド／
設置ガイド（動画）／リフレッシュガイド（動画） LG Electronics Inc.（LG エレクトロニクス）
 - (2) 電子辞書 XD-SRシリーズ共通詳細 取扱説明書（HTML） カシオ計算機株式会社
 - (3) SREX-D32C Aitella オペレーションガイド キヤノンメディカルシステムズ株式会社
 - (4) CT6710, CT6711 電流プローブ 取扱説明書 日置電機株式会社
 - (5) 電子ピアノ P-125、P-121 取扱説明書、クイックオペレーションガイド ヤマハ株式会社

● ジャパンマニュアルアワード 2019 評価概要

1. ジャパンマニュアルアワード委員会 清水委員からの報告

● 第二部（マニュアル オブ ザ イヤー発表、表彰式）

1. テクニカルコミュニケーター協会 綿井会長 挨拶
2. ジャパンマニュアルアワード 2019 実行委員会 遠藤実行委員長からの発表
3. マニュアル オブ ザ イヤー選考経過説明および表彰（賞状、トロフィーの授与）
4. マニュアル オブ ザ イヤー受賞企業挨拶
5. 選考委員 テクニカルコミュニケーター協会 綿井会長 講評



マニュアル オブ ザ イヤー授与風景



マニュアル オブ ザ イヤー受賞者挨拶

審査結果

■ 入賞マニュアル一覧

賞名称		マニュアル名称	応募会社	解説
マニュアル オブ ザ イヤー		電子辞書 XD-SR シリーズ共通詳細 取扱説明書 (HTML)	カシオ計算機株式会社	14
優秀賞	一般部門	ターンテーブル TT-S303 取扱説明書	ヤマハ株式会社	20
		デジタルカメラ E-M1X クイックガイド/ 取扱説明書 サポートマニュアル E-M1X 機能活用のヒント (web)	オリンパス株式会社	21
		外付けハードディスク HD-LDS-A シリーズ HD-LDF-A/Y シリーズ らくらく! セット アップシート	株式会社バッファロー	22
		取扱説明書 1DAY メニコン プレミオ シリーズ	株式会社メニコン	23
		電子ピアノ P-125、P-121 取扱説明書、 クイックオペレーションガイド	ヤマハ株式会社	19
		住宅用雨とい 技術・施工資料	パナソニック ライフソ リューションズ クリエ イツ株式会社	24
		施工説明書 断熱玄関ドア Venato D30・ 断熱玄関ドア Venato D30 防火ドア	YKK AP 株式会社	25
		ルームエアコン取扱説明書 CS-WX409C2	パナソニック株式会社 アプライアンス社 空調冷熱ソリューシ ョンズ事業部	26
		電子辞書 XD-SR シリーズ共通詳細 取扱説明書 (HTML)	カシオ計算機株式会社	14
		LG styler 取扱説明書 (LG styler 設置ガイド/ LG styler リフ レッシュガイド/設置ガイド(動画)/リフ レッシュガイド(動画)を含む)	LG Electronics Inc. (LG エレクトロニクス)	16
	産業部門	表面粗さ/輪郭形状測定機 表面粗さ・ 輪郭形状解析プログラム 基本操作ガイド	株式会社ミットヨ	27
	CT6710, CT6711 電流プローブ 取扱説明書	日置電機株式会社	18	
	SREX-D32C Aitella オペレーションガイド	キャノンメディカル システムズ株式会社	17	

賞名称		マニュアル名称	応募会社	解説
特別賞	企画賞	横形マシニングセンタ a51nx WEB マニュアル	株式会社 牧野フライス製作所	28
	安全賞	横形マシニングセンタ a51nx WEB マニュアル	株式会社 牧野フライス製作所	29
	審査委員 特別賞	取扱説明書 1DAY メニコン プレミオシリーズ	株式会社メニコン	30
		住宅用雨とい 技術・施工資料	パナソニック ライフ ソリューションズ クリエイツ株式会社	31
学生賞	取扱説明書 1DAY メニコン プレミオシリーズ	株式会社メニコン	32	
奨励賞	ムービー努力したで 賞	TRUME MB82 取扱説明書	エプソンアヴァシス 株式会社	33
	施工者にやさしいで 賞	ネオレスト NX 施工説明書 他 9種	TOTO株式会社	33
	伝わる努力をしたで 賞	ドラム式電気洗濯乾燥機 (家庭用) 取扱説明書	パナソニック株式会社	34

■ 応募数及び受賞数

ジャパンマニュアルアワード 2019 は、応募が 49 作品。
本年から「部門優良賞」「部門優秀賞」は廃止し、「優秀賞」に統合しました。

部門		応募数	受賞数					
			優秀賞	企画賞	安全賞	審査委員 特別賞	学生賞	奨励賞
一般	紙マニュアル	23	7	0	0	2	1	0
	画面で見るマニュアル	3	1	0	0	0	0	0
	紙+画面で見る マニュアル	9	2	0	0	0	0	3
産業		14	3	1	1	0	0	0
合計		49	13	1	1	2	1	3

入賞マニュアル解説

マニュアル オブ ザ イヤー / マニュアル オブ ザ イヤー ノミネート賞 / 優秀賞

一般部門 画面で見るマニュアル

電子辞書 XD-SRシリーズ共通詳細 取扱説明書 (HTML)

カシオ計算機株式会社



● 選考委員のコメント

本受賞作は、スマートフォン閲覧を前提とした電子マニュアルである。電子辞書のユーザーは、今やスマホに夢中な中高生だけではなく、一般社会人からアクティブな高齢者まで多様化している。多様なユーザーのニーズに応えるべく、また、マニュアル自体の根本的な改善を図るべく、紙冊子マニュアルの脱却を目指して開発された電子マニュアルである。

MOYに選定された理由は、次世代型マニュアルの基本コンセプトを探求し、その具体的姿を提示したことにある。従来の電子マニュアルが、どちらかといえば、紙冊子マニュアルに基づいた情報構造をそのまま反映したものだったといえる。無意識のうちに、最初の表紙から最後の索引まで系列的に情報が整理・構造化されてマニュアルが製作されていたと考えられる。一方で、本作品ではユーザーが必要とする情報に最低限の操作でアクセスできることを実現している。また、情報にアクセスするインターフェースを多

彩に用意している。ユーザーの電子辞書の使い方とマニュアル情報をどのように必要にするのかを徹底的に分析した上で、電子マニュアルの構成を設計している。いわば、必要とする情報を並列的に配置し、マルチアクセスを可能にした作りになっている。

動画による説明の導入や二次元バーコードによる情報へのアクセスなど、具体的な工夫もなされており、今後の電子マニュアルにとって参考になることが多い。

以上の点から、本作品は冊子形態ではないマニュアルの在り方を模索し実現していく「扉を開けた」作品だといえる。

その意味で本マニュアルは決して完成形ではない。本作品を起点の一つとして、情報技術がさらに進展していくなかで、使用・サービス情報の提供の形について、基本的なコンセプトの刷新とその実現が求められる時代に突入したと考える。

● 二次審査委員の解説（シンポジウム展示パネルから転載）

HTMLの特性を十分活かした、使いやすい電子マニュアルである。スマートフォンの表示でも、縦、横、それぞれの向きに対応している。トップページを開いてすぐに目に入る、動画の配置も適切である。動画は、ナレーションが聞き取りやすい、内容がわかりやすい、展開、再生スピード、長さが適切など高く評価された。動画の音声に文字を添えることで、音が出せない場所で動画再生をするとき、聞き取れない場合など、ユーザー

が使用する環境への配慮がされている。検索ボタンが、トップページを含む各ページに配置されており、本マニュアルの全文検索に対応している。検索対象の用語をハイライト表示して、検索性、使いやすさを向上させている。

しかし細かい部分では、用語の統一、コネクタを挿し込む向きの注意を文章のみで促しているところなど、気になる点がいくつかあるため、今後の改善を期待したい。

● 受賞者の声：カシオ計算機株式会社

このたびは、マニュアル オブ ザ イヤーという大変名誉ある賞をいただきまして、誠にありがとうございました。

今回私たちは、「ウェブ時代のお客さまに合わせた新しい情報のカタチ」をテーマに、一から情報を設計してマニュアルを制作しました。

これまでの紙マニュアル制作の流れから大きく変える必要がありましたが、お客様がいつどのような状況でご覧いただくものか、またそのためのマニュアルはどういった構造が良いかを議論し、形にすることができました。

ウェブ、とりわけスマートフォンの普及で、お客様が情報を入手する方法や、情報に対する考え

方も大きく変わってまいりました。

また、企業としても環境への配慮や、様々なお客様への対応をさらに重視する必要も出てきます。

まだまだ私たちも課題が多く、ようやくスタート地点に立ったところだと感じています。これからも、従来の形にとらわれない、お客様目線のマニュアル作りに取り組んでいきたいと思っております。

最後に、昨年も貴重な気付きを数多く与えていただいたTC協会様、今回の制作にご尽力いただいた制作会社の皆様にも感謝を申し上げて、受賞の言葉とさせていただきます。

■ マニュアルオブザイヤーノミネート賞/優秀賞

一般部門 紙+画面で見るマニュアル

LG styler 取扱説明書 (LG styler 設置ガイド／LG styler リフレッシュガイド／設置ガイド(動画)／リフレッシュガイド(動画)を含む)

LG Electronics Inc. (LG エレクトロニクス)

対象製品は、一般的に馴染みの薄い製品である。マニュアルを開いた冒頭のページに、製品コンセプト(リフレッシュするしくみ)が説明されており、IEC82079の考え方に沿っている。ユーザーは、本製品をはじめて使うケースが多いと想定される。

まずはユーザーに読んでもらうために、マニュアルには、ビジュアルでわかりやすい工夫がされている。全体的にゆったりとしたレイアウトで、好感が持てる。さらに「リフレッシュガイド」は、各コースの運転できる衣類や、使い方のポイントが一目で理解できるので安心できる。

マニュアルからQRコードで、設置ガイド(動画)、リフレッシュガイド(動画)を見ることができ、動画は、マニュアルでは表現できない内容が丁寧に説明されており、非常にわかりやすい。

一方、マニュアルの文章が長く、読みづらい部分がある。文章を簡潔にし、文字サイズを大きくすると、読みやすくなるだろう。



■ マニュアル オブ ザ イヤー ノミネート賞/優秀賞

産業部門 紙マニュアル

SREX-D32C Aitella オペレーションガイド

キヤノンメディカルシステムズ株式会社

表紙にある目次を見るだけで作業全体の工程を把握でき、準備、検査、終了という三つの大工程の色分けと各ページのヘッダーに配置された進捗バーとの相乗効果によって、開いたページが作業全体のどこの情報かわかりやすい。

全体レイアウトや色使いに一貫性があり、読み進めやすいうえに、各作業手順が簡潔にまとめられており、初心者ユーザーでも全体の流れを容易に理解できる。さらにラミネート紙やリング製本を採用することで、X線検診車の中などの狭い空間でも取り扱いやさしい冊子に仕上がっている。必要情報も網羅されており、とくに非常時の対応や問合せ先などが見つけやすいよう配置されている。ただし、「注意」の内容や作業時の安全関連情報など、リスク情報の記載については見直しを推奨する。

画像表現には改善の余地がある。とくに画面背景が濃色で視認性が悪い点は改善を強く推奨する。装置画像についても各部の位置関係や正しい動き・状態がわかるように表現を工夫することが望まれる。



■ マニュアルオブザイヤー ノミネート賞/優秀賞

産業部門 紙マニュアル

CT6710, CT6711 電流プローブ 取扱説明書

日置電機株式会社

基本に忠実かつユーザーの心理に寄り添うマニュアルである。まず、表紙の本体写真がマニュアルの識別しやすさに貢献している。続いてマニュアル冒頭には測定の流れと接続例が、1章には製品の概要と特長が説明されているため、製品の全体像を最初に把握できる。以降も適切な順序で必要な情報が掲載され、ストレスなく製品理解を深められる。

コンパクトなマニュアルにもかかわらず、文字や行間のサイズが確保されていて読みやすい。またイラストにも、LEDの点灯状態を記号と文字の両方で示す、指のイラストで押すべきボタンの視認性を上げるなど、視覚的にわかりやすく伝える工夫がある。

各作業項目の冒頭には警告メッセージが整然と配置され、目につきやすい。リスクの要因、リスクの回避方法、回避できなかった場合の結果まで説明できている。ただし「2.3 電流の測定」冒頭では警告メッセージが10ページにも及び、手順説明に入るまでが長すぎるため改善の余地がある。



■ マニュアル オブ ザ イヤー ノミネート賞/優秀賞

産業部門 紙マニュアル

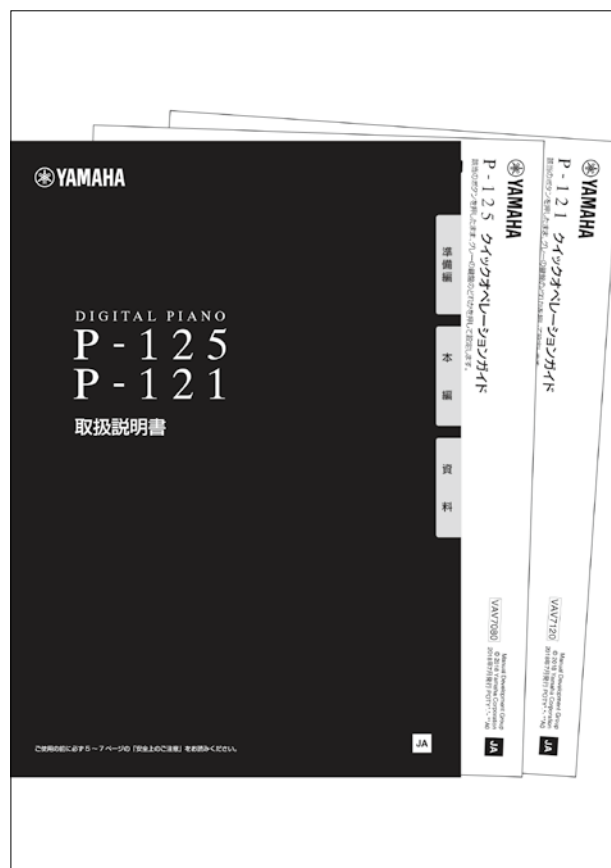
電子ピアノ P-125、P-121 取扱説明書、クイックオペレーションガイド

ヤマハ株式会社

ユーザーが使用するタイミングにより、「取扱説明書」と「クイックオペレーションガイド」に分冊化されており、「クイックオペレーションガイド」に必要な情報が記載されているため、使い慣れたユーザーは取扱説明書を見ることなく操作ができるよう、初心者から使い慣れたユーザーまでの利用を想定した工夫がされている。

また、電子ピアノの譜面立てに置いておくことが容易でユーザーへの配慮がある。「取扱説明書」は、『鍵盤を使った操作について (p.4)』でイラストの表記説明があり、本文を読み進める導入の手助けとなっている。操作手順をイラストの中に数字で表示することにより、ユーザーに伝わる工夫がされている。鍵盤数の異なる二つの製品において、それぞれの鍵盤位置が明記されており、間違いがおきない配慮がされている。

ただ、見出しの階層が統一されていない、ホワイトスペースの確保など、気になる点がいくつかある。今後の改善に期待したい。



■ 優秀賞受賞作品

産業部門 紙マニュアル

ターンテーブルTT-S303取扱説明書

ヤマハ株式会社

レコードのジャケットをイメージした表紙のデザインが印象的で、紙の取扱説明書の特性を生かし、ユーザーが手に取り読んでみようという意識が湧く。

テキストを詰め込みすぎず、ゆったりとしたレイアウトで、幅広いユーザー層に対してわかりやすいと感じさせる内容である。検索性も見出しが本文に対して、とても大きく一目で項目が把握できるため情報が探しやすい。また、テクニカルイラストが見出しとしての役割を担っており、パラパラとページをめくっても目的の情報を探し出すことが容易だ。

ただ、プラッターやハウジング・マージンなどの専門用語が使われているが、昔からレコードに親

しんでいるユーザーには理解できても、はじめてレコードに触れるユーザーには難しいと感じた。幅広いユーザー層に理解してもらえるように、専門用語の補足説明をするか、用語集の記載があっても良いだろう。また、登場頻度、操作頻度の多いトーンアームのロック部も各部の名称と機能でイラストと一緒に説明した方が良いだろう。

それらの情報の記載内容や記載場所には改善の余地があるため、今後の改善を期待したい。



一般部門 紙+画面で見るマニュアル

デジタルカメラ E-M1X クイックガイド/取扱説明書 サポートマニュアル E-M1X機能活用のヒント (web)

オリンパス株式会社

デジタルカメラは、撮影支援機能と画像調整機能が增加している。

撮影成功率や写真表現拡大の可能性を高める反面、知るべき情報の多さが搭載機能を使わない原因となり得る。

本マニュアルの狙いは、冊子「取扱説明書」で表現しにくい事柄をweb情報「サポートマニュアル」で補完し、同時に、未経験の機能を使う動機をweb情報で与えて取扱説明書に導き、搭載機能を活用してもらおう、というものである。

この狙いと、オーソドックスな構成の冊子とした取扱説明書が情報提供性能に優れ使用情報を完備している点を評価し優秀賞とした。

web情報が充分ではない、取扱説明書の一部文章表現やクイックガイドに載せる情報の選択に要改善点がある、マニュアル相互の誘導が弱い、など、狙いの実現度が高いとは言えない。また、取扱説明書は、撮影時の使用にはハンドリングが容易でない厚さに達しており、手に持つ説明書の厚さの限界についての問いかけともなろう。

各マニュアルの洗練とともに、それぞれの形態に適した情報量と物理サイズの限度の見極めと最適化を行い、提供情報量が多い高性能カメラのマニュアルの手本となることを期待する。



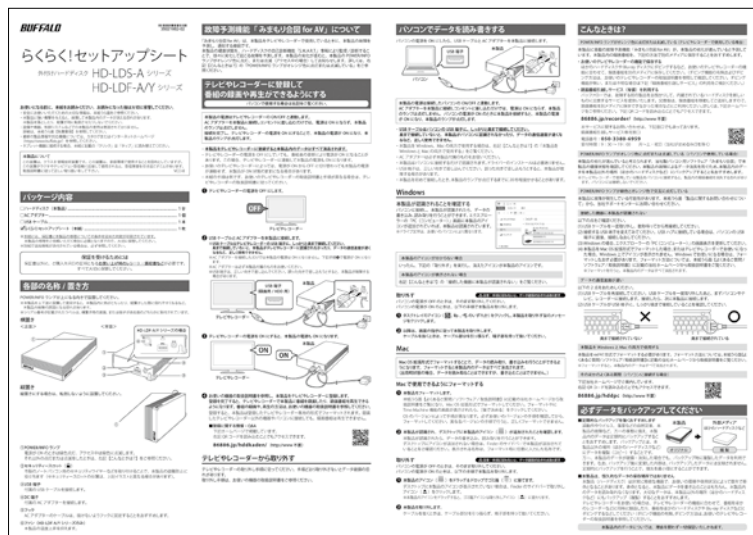
外付けハードディスク HD-LDS-Aシリーズ HD-LDF-A/Yシリーズらくらく!セットアップシート

株式会社バッファロー

一見文章量が多いが無駄な記載はなく、書くべきことがきちんと書かれたマニュアルである。限られた紙面の中で、イラストの角度を統一し、製品背面を大きく表現しているなど視認性の良い作りになっている。

さらに、接続から使用開始までを1枚のシートで完結できている点も評価された。各項目の情報量を意識したレイアウトと折り方が工夫されており、開いていくことで本文を順に進めることができる。折りたたんで必要な箇所のみを見られるため、使い勝手も良い。ユーザーの使用環境に配慮し、取り扱いやすいよう工夫されている。

しかし、文字の強調や表現に一貫性が無く、探しやすさ、わかりやすさには課題が感じられる(例: データ消去・破損に関する情報)。情報の区分を明確にして識別表現を整理すれば、リスク回避性も向上したマニュアルになると思われる。また、文章量を見直し、余白を増やすことで見やすさの改善も期待する。



取扱説明書 1 DAYメニコン プレミオシリーズ
株式会社メニコン

本作品は、「取扱説明書」という名称だが、“全てのユーザーの手に渡る”とは限らない。主にコンタクトレンズを初めて使うユーザーに対し、販売店で注意事項や取り扱いを説明する際に利用し、手渡している使用説明の補足文書

である。

製品には、使用説明として「添付文書」が同梱されている。「添付文書」は、法令に基づき、業界共通フォーマットで作成されたものだが、これにユーザーは少なからず“堅苦しさ”を感じてしまうようだ。本作品は、整理された記載

構成、平易な文章、親しみやすいタッチのイラスト、彩度を抑え落ち着いた色調、によって、“堅苦しさ”を極力ユーザーに感じさせずに情報を伝えようとしており、その効果が得られている。

細部では、情報の記載順を見直すべき部分が見受けられる、色使いでは、視力矯正の製品なので、視覚多様性への更なる配慮が欲しい、など改善の余地もあるが、親しみやすさから、わかりやすさにつなげている好事例である。



必要な製品情報や施工手順が漏れなく掲載され、それらを誤りなく伝えるための工夫が随所になされている。たとえば基本編 p.1-5に、作業前に見て欲しい情報（必要な工具や部材／部材ごとの位置と作業／施工手順のフロー）をひと流れで載せることで、ユーザーは混乱することなくスムーズに施工作業に入ることができる。

また、安全に関する情報をマニュアル冒頭にまとめて載せるだけでなく、章ごとに想定されるリスクや注意点を再掲しており、重大事故を未然に防ごう、という強い意思が感じられる。

反面、参照ページや目次を利用しての検索には課題が見られる。本書のノンブルは「基本編 p.13」のように章とページ番号で構成されているが、本文内の参照ページはページ番号のみで記載されているため、目的のページを探しづらい。

また、目次とページの表題が不一致な箇所が見られた。（目次「商品別編アーキ・スペック トイ (p.148)」、ページ表題「商品別編 Archi-spec TOI」など）



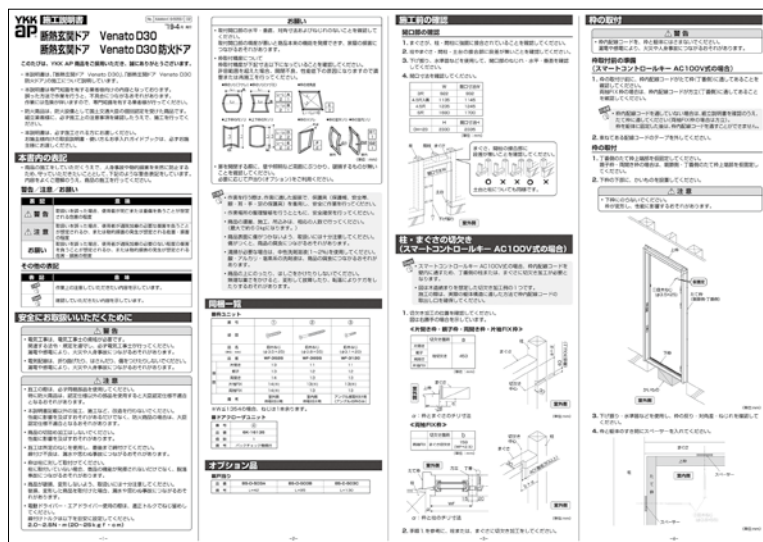
施工説明書 断熱玄関ドア Venato D30・断熱玄関ドア Venato D30 防火ドア
YKK AP株式会社

現場の声や読者の要望をマニュアルに反映するなどの工夫や改善を行っている点、施工というシーンを考慮してシート形式を選んだ点の妥当性や、シートの折りと施工手順の記載順との連動性が評価された。

1ページ目に施主向けのマニュアルやガイドブックがあることが書かれていて、他のマニュアルとの関係性が伝わってよい。

現場では軍手などをしていることもあり、ページをめくるのも難しく、タブレット端末の操作も困難であることから、シート形式での提供は適切である。シートを折った時のサイズも適切で利便性もよくめくりやすく、安全規格情報の記載も適切で、必要な内容だけに吟味している点に好感を持った。

施工手順の全体像（全体の流れ）を俯瞰できるような情報があると、更にわかりやすくなる。



ルームエアコン取扱説明書 CS-WX409C2

パナソニック株式会社 アプライアンス社 空調冷熱ソリューションズ事業部

自分の目的に合わせてどの機能を選べばよいかが判断できるように、イラスト入りで説明されている箇所が多く、ユーザーにとって製品の機能をイメージしやすいマニュアルである。特に、大きなイラストと少ない文章で操作結果を理解させ、詳細を知りたい場合は下の文章を読ませる構成がマニュアルを敬遠しがちなユーザーにも受け入れられそうだ。(p.42-46の「○○について」やp.50-51の「お掃除機能について」)

文章で始まる説明より、見て(読んで)もらいやすくなるのではないだろうか。製品を適切に使用するためのp7「使用上のお願い」は、鉛筆アイコンで目立つチェックリスト形式になっていることと、充電式電池を使わないことを明確に書いていることで、ユーザーがもつ疑問を解消できていると感じた。

一方、「こんなときは」「故障かな?」「よくあるお問い合わせ」といった類似項目があることで、困ったときにどこを見たらよいか戸惑うことが考えられる。種類を絞るなどの改善は求められる。取り扱いやすさという点で、紙がやわらかく滑りやすいせいか、めくりにくいのが難点である。



必要情報、わかりやすさにおいて、基本に忠実に制作されており、よいマニュアルである。IEC82079をベースに製品の意図した使用目的、対象読者、警告ラベルの位置など記載漏れしやすい情報も明記され、必要情報がしっかりと記載されている。

A-15「非常停止から復帰する方法」は大型測定機において大事な操作部分であり、操作手順番号に色付けすることで、ユーザーが一目でその部分を注目しやすくなる配慮がなされている。また測定編のページ上部には全体のどのパートの作業に属しているかを示すナビゲーションが載せられており、ユーザーは作業の状態がわかりやすい。

一方、作業の流れに対してその流れ図が重複して記載されている、という問題がある。例えば、PART3の「作業全体の流れA-29ページ」で各測定作業の流れを示し、その測定作業のパート部にも同じ作業の流れ（B-10ページやC-5ページ）を記載している。PART3の「作業全体の流れ」を削除するなど、重複を解消するほうが良いと思われる。



■ 特別賞受賞作品

● 企画賞

産業部門 画面で見るマニュアル

横形マシニングセンタ a51nx WEBマニュアル 株式会社牧野フライス製作所

徳田 直樹

一般財団法人 テクニカルコミュニケーター協会
副評議員長

本作品は非常に大きな機械の定期保守説明書である。製品の制御パネルが機械の一面に設置されている。例えばワンルームマンションの容積を持つ機械を想像していただきたい。制御パネルは玄関の位置にある。

個々の機械の運転履歴はサプライヤーが管理しており、制御パネルのディスプレイにはそのタイミングで必要な定期点検項目を表示することができる。また、必要な点検手順の説明だけをディスプレイに表示することができる。しかし、例えば点検

箇所がベランダの位置にあるとすると、その位置からはディスプレイを見ることはできない。

この問題を解決する方法が優れている。ディスプレイにQRコードを表示させ、それをスマホやタブレットなどのモバイル端末に読ませることによって必要な点検手順の説明だけをインターネット経由で読むことができる。モバイル端末を持っていれば制御パネルから離れた場所でも点検手順を確認しながら作業ができるようになっている。このような

ユーザーに寄り添った情報提供方法を評価して企画賞とした。



● 安全賞

産業部門 画面で見るマニュアル

横形マシニングセンタ a51nx WEBマニュアル 株式会社牧野フライス製作所

長田 敏 製品安全コンサルタント

工作機械は、製品を製造加工する場合に日常的、長期にわたって使用する必要がある。しかし、工作機械は一般消費者が使用する製品と異なり、使用方法が特殊で、故障以外のメンテナンスも工場作業者が専門技術によって自ら行う必要があるため、紙ベースのマニュアルで理解することは困難である。また、特殊な加工を行う産業用の工作機械に至っては、その構造などは機密情報として取扱われているものもある。

本WEBマニュアルは、これまでの工作機械にはない、次の4点を加味している。

1 携帯電話によるQRコードの利用

携帯電話の所有率は国民の80%を超えていると言われており、QRコードを読み取ることができる携帯電話を身につけておけば、工作機械の安全なメンテナンス方法について、ビジュアルな動画で理解することができる。

2 動画がはじまる前に、次の警告表示が行われる

「本機械で作業／操作する際は、事前にすべての警告ラベルを確認し、マニュアルの内容を理解してください。確認を怠ると死亡や重傷につながります。」

3 工作機械のメンテナンスの動画が工場作業（専門家）向けに作成されており、ビジュアルで分かりやすい。

なお、工作機械のメンテナンスの動画の概要は、次のようなものである。



- (1) 機械的な動作をする箇所へのグリスの塗布方法
- (2) エアフィルターの掃除方法
- (3) オイルボックスの取り付け方法、オイルボックスの中のフィルター、パッキン等の交換方法
- (4) カートリッジグリスの交換方法
- (5) エアーユニット、圧力計の調整方法
- (6) エアーフィルターエレメントの交換方法
- (7) フィルターエレメントを取り付ける方法
- (8) パンタグラフに「はけ」でグリスの塗布方法
- (9) 機械制御装置のバッテリー（リチウム電池）の交換方法
- (10) バッテリー（アルカリ電池）の交換方法

4 動画の説明は、工作機械の仕向地又は工場作業によって、日本語、英語、韓国語を選べるようになっている。

以上の点から、本WEBマニュアルは、工作機械に貼付しておけば、携帯電話で工作機械の安全に関わる箇所のメンテナンスをビジュアルな動画で見ることができ、リスクを低減する方策にも繋がる「安全賞」にふさわしいものといえるだろう。

● 審査委員特別賞

一般部門 紙マニュアル

取扱説明書 1 DAYメニコン プレミオシリーズ 株式会社メニコン

長田 敏 製品安全コンサルタント

我が国では、製造物責任は、製造物の製造、加工又は輸入した者が責任を負うことになっており、販売事業者が負うことはない。しかし、コンタクトレンズの販売事業者は、医薬品、医療機器等の品質、有効性及び安全性の確保等に関する法律（以下、「医薬品医療機器等法」という。）に基づき、医療機器販売及び賃貸業の営業所管理所管理者基礎講習会を受講する義務があり、販売事業者は購入者に対する一定の説明責任を負うことになる。

一方、コンタクトレンズは、ヒトの眼そのものに直接装着するものであり、マニュアルを読まないで装用する一般消費者が多いことから、次のような事故が多発している。

1. コンタクトレンズを数日間連続して装用したために眼に炎症が発生。
2. コンタクトレンズを寝る前にはずさなかったために眼に炎症が発生。
3. コンタクトレンズに異物、汚れがついたまま装用したために眼に炎症が発生。
4. 目に異常を感じたがコンタクトレンズをはずさなかったために眼に炎症が発生。
5. コンタクトレンズの破損に気づかずに装用していたために眼に炎症が発生。

このことから、販売するコンタクトレンズの箱の中に医薬品医療機器等法に基づく添付文書を同梱することが義務づけられているが、文字による説明だけの添付文書では、コンタクトレンズのリスクを低減することできないだろう。本マニュアル



作成の意図は、一般消費者に理解しやすいマニュアル作成にチャレンジしたものだろう。

本マニュアルは、コンタクトレンズの使用方法がカラーの図面入りで、次の事項がわかりやすく記載されている。

- レンズを取り扱う前に レンズのチェック
 - レンズの取り出し方 レンズのつけ方（タイプ1）
 - レンズのつけ方（タイプ2）
 - レンズのはずし方
 - 装用スケジュール 定期検査
- 次に「安全・安心のために」及び「使用上のご注意」が明記されている。

更に、マニュアルにはQRコードが3種類表示されており、携帯電話でレンズのつけ方・はずし方の取扱方法を動画で見ることができ、製造事業者へのメールでの問い合わせ、ホームページのアクセスを行うことができる。

本マニュアルには製品名、事業者名、問い合わせ先が明記されている。このため販売事業者はコンタクトレンズ購入者のみにマニュアルを配布して、必要に応じて購入者に説明を行うことになるだろう。本マニュアルの作成の意図が理解できる。

● 審査委員特別賞

一般部門 紙マニュアル

住宅用雨とい 技術・施工資料

パナソニック ライフソリューションズ クリエイツ株式会社

市川 美知

産業能率大学 情報マネジメント学部 兼任講師

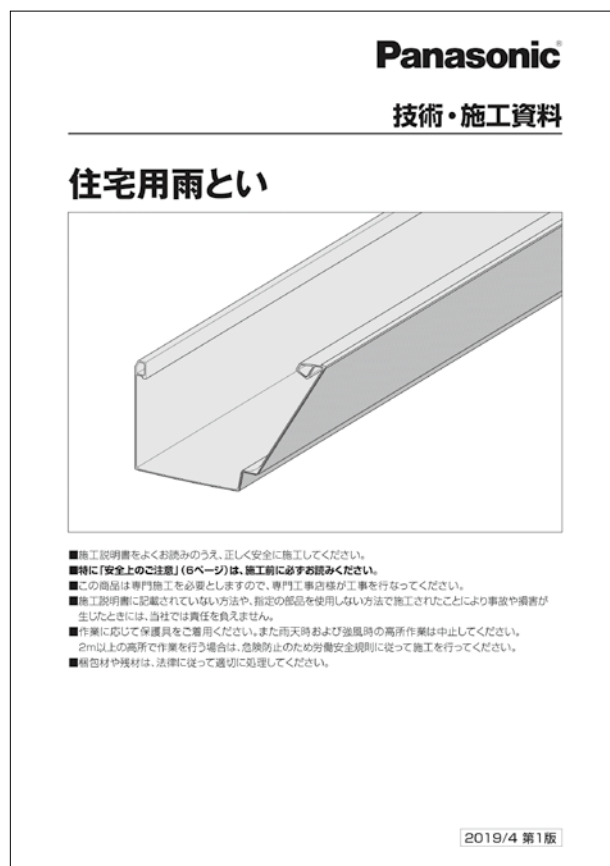
本説明書はトータルで448ページという膨大なページ数です。これだけ分厚いマニュアルだから特別賞だと考えるのは早合点です。

本書は「住宅用雨とい 技術・施工資料」とあるように、単なる施工説明書ではなく、商品一覧、積算方法、施工方法、軒先収まり図など、施工業者が必要とする情報が網羅されています。いわゆるマニュアルとしてはもちろん、技術カタログとしても、また新たな施工業者のための教育資料としても利用できると思われます。工務店ではファイル棚に様々なマニュアル、カタログの類が並んでいると思いますが、あえて分冊にしないで1冊にまとめていることで逆に手に取りやすいと想像します。

積算の価格表示、各種寸法表示はマニュアル制作者がもっとも神経を使い、間違いが許されないものですが、よく頑張ったと思います。2色使いは一定のルールを持って使いすぎずに効果的です。

評価コメントの希望に検索性が挙げられていますが、左右ページ小口インデックスを設けたことは、印刷物の厚さを考慮すると大変探しやすいです。疑問なのは、なぜ全ページを通しのノンブルにできなかったのか、ということです。

WEBサイトでは項目ごとにダウンロードでき細かいイラストも拡大してみることができます。一方で紙マニュアルは全体が見渡せる利点があり、双方の役割分担がきちんと考えられています。



● 学生賞

一般部門 紙マニュアル

取扱説明書 1DAY メニコン プレミオシリーズ 株式会社メニコン

安藤 昌也 千葉工業大学 先進工学部 教授

今年度のマニュアルアワードでは、初めての試みとして大学生による審査会を開催した。様々なメディアを使いこなしている若い人たちが、マニュアルをどのように評価するかを知ること、新たな視点に気づける可能性がある。

今年度は、京都女子大学 山岡俊樹教授研究室（4名）、常葉大学 安武伸朗教授研究室（4名）、千葉工業大学 安藤昌也教授研究室（15名）で行われた。対象とした作品は、一般部門13点である。審査方法は、それぞれ個人審査を行ってもらった後、合評による審査によって上位作品を選出してもらう方法をとった。

3校それぞれに順位をつけてもらった結果、いずれの大学も上位にランキングされる作品には共通する傾向が見られたが、中でもメニコン社の「1日使い捨て・終日装用ソフトコンタクトレンズ取扱説明書」が、いずれも上位3位以内に入選していた。この結果を踏まえて三次審査会において「学生賞」として表彰することとなった。

コンタクトレンズは、高度管理医療機器に分類されるもので、薬機法等の法令に基づく添付文書はコンタクトレンズに同梱されている。本審査の対象は、業界団体等が推進している適正使用情報の提供のために用いる説明書に該当する。

作品は5つ折りの一枚物で、フルカラーでイラストを多用したものになっている。対象ユーザーは初めてコンタクトレンズを使用する人であり、コ

ンタクトレンズの取扱い方法や注意点をわかりやすくまとめたものとなっている。学生審査で評価された点としては、コンタクトレンズを装着する際にみるマニュアルであることを考えると、両手がふさがってしまうため、ページをめくる必要のない一枚物は良いこと、レンズの付け方・はずし方の流れの全体像を把握しやすいことなどが挙げられた。

イラスト表現は親しみやすさがある一方、目の表現が単純化されすぎており、瞼を引き上げる様子が正確にはわからず、本当に初めての人の場合にはどの程度の強さで引き上げれば良いかが伝わらないのではないかと、との指摘もあった。なお、この取り扱い説明書では、取り扱い説明動画への誘導（QRコード）が用意されており、動画では実際の映像で説明されている（動画は評価対象外）。また、店頭での装着指導があることを考えると、必ずしも正確な表現でなくても良いのかもしれない。

制作にあたっては、店頭での販売員へのヒアリングやアンケートなどを実施しており、現場の説明での使用と自宅での確認を想定したものとなっている。学生評価でも、わかりやすく親しみのある明るい印象は高く評価されており、正確な取り扱いを顧客に伝達するための取扱説明書としては、十分に機能しうる作品と言える。

なお、今後も学生審査については、継続的に実施できる方向で検討を重ねて行く予定である。

■ 奨励賞受賞作品

ムービー努力したで賞

一般部門 紙＋画面で見るマニュアル

TRUME MB82 取扱説明書

エプソンアヴァシス株式会社

針を用いて計測結果を表示する腕時計は、一般的になじみが薄い。特に本製品には、複数の計測機能が搭載されているため、各機能を使用するための手順に慣れが必要である。本製品のマニュアルは、操作手順および計測中の動きなど、「目の前でやってみせる」という感覚で動画を用い、操作中の機器の状態を伝えることに成功している。

マニュアル中に動画を組み込んだ、という点も評価した。マニュアルの適切な場所に動画を配置することにより、ユーザーが必要とするタイミングで、

必要な情報の提供ができています。

動画の構成はよく練られており、一定のペースで動く針の様子が美しく表現されている。また、再生時間も、ユーザーの集中力が途切れない長さに収まるように工夫されている。

ただし、マニュアル上のイラストと動画内の画像に統一感がない、計測に失敗した際の動きが動画で説明されていない、など気になる点がある。今後の改善を期待したい。

施工者にやさしいで賞

一般部門 紙＋画面で見るマニュアル

ネオレストNX 施工説明書 他 9種

TOTO株式会社

縦2ブロックのレイアウトを基本として、全体のイラストと部分を示すイラストのバランスが良く、視認性の高いマニュアルである。「各部のなまえ」は、各部から参照ページを誘導しており検索性が高い。「安全上のご注意」では、バスルーム全体のイラストを掲載し、各部と注意事項をリンクさせている点がわかりやすい。

一方で、もくじを見ても「お手入れ編」と「メンテナンス」の違いがわからないため、知りたい情

報がどこに記載されているのかが探しづらい。また、もくじやツメ見出しに使用されている明朝体のフォントには違和感があり、読み手の理解を妨げている。章見出しに使用されている木目のような背景も、製品との一体感を感じられないため、デザインコンセプトをしっかりと立てる必要性を感じる。

部分的に工夫できている点はあるが、マニュアル全体で必要とされる探しやすさや、製品との一体感が改善されることを期待して、奨励賞を贈る。

伝わる努力をしたで賞

一般部門 紙＋画面で見るマニュアル

ドラム式電気洗濯乾燥機（家庭用）取扱説明書

パナソニック株式会社

特に高く評価されたポイントが2点ある。

ひとつは「安全上のご注意」(p.4-5)。情報を絞り込み、優先順位を付けて、簡潔に表現されている。総覧的になり肝心の注意を喚起できなくなってしまうことが多いのだが、注意点が明確になっている。

もうひとつは、「毛布やふとんの入れ方」(p.21)。洗濯機のマニュアルで毛布などを折りたたんだ図は良く見るのだが、ユーザーの動作を加えてドラムへ入れる手順は初めて見た。丁寧でわかりやすい説

明である。「安全上のご注意」にあるチャイルドロックと、毛布など大きなものが洗えるのは当該製品の特長でもあり、製品に即した説明と言える。

目次の使いにくさ、レイアウトの煩雑さなどが全体の評価を下げることになり優秀賞を逃したが、個々の説明にはお手本となるものがあり奨励賞とした。

■ 最終審査委員コメント

安藤 昌也 千葉工業大学 先進工学部 教授

今年度のマニュアルアワードの審査は、新しい時代のマニュアルとはどのようなものかについて、考えさせられるきっかけになりました。それには2点あります。

1点目は、動画を主体とした電子マニュアルのあり方についてです。ここ数年HTMLでの電子マニュアルも審査にノミネートされることが多かったのですが、特に動画による取扱説明は発展途上の印象がありました。しかし、今年度は、一般部門だけでなく産業部門からも動画を評価対象とする作品がノミネートされており、その内容も非常に充実したものでした。特に、動画取説をどのような状況・タイミングで使用するかを考慮したものが増え、動画によるマニュアルの可能性を感じるものでした。

その典型的なものが、企画賞および安全賞を受賞された(株)牧野フライス製作所「横形マシニングセンター a51nx WEBマニュアル」です。これは、工作機械のメンテナンスの作業方法を動画で説明するものですが、わかりやすい動画ということにとどまらず、字幕がCC (closed captioning) で入れられており、多言語対応できる拡張性を考慮して制作がなされているものです。昨年度審査の私のコメントでは「業務向けの電子マニュアルの可能性」について言及していましたが、まさにこれに応える作品だったと思います。

ただし、動画取説には課題も感じました。動画に至るWebマニュアルや紙マニュアルからのユーザー

動線、閲覧する状況や頻度を考慮した適切な動画の長さ、動画で解説する内容やその順序など、製品の特性に即した検討がもっとなされる必要があるようにも感じます。動画取説の可能性にさらに期待したいと思います。

2点目は、イラスト的表現の意味の変化です。一般消費者を対象とした取扱説明書では、製品の写真あるいはトレースした図版が多く用いられると思います。一方でカットイラストなどは、挿絵的な用い方が一般的だと思います。しかし、昨今では家電製品などの取扱説明書において、むしろユーザーの注意を引く目的でカットイラスト的な表現が用いられる傾向があるようです。単にワンポイントだけでなく、説明内容も同様の表現で行われることも増えてきました。奨励賞「伝わる努力をしたで賞」を受賞したパナソニック(株)「ドラム式電気洗濯乾燥機(家庭用)取扱説明書」もそのようなものの一つです。

このことは、ユーザー側が感じる「わかりやすい」や「理解しやすい」という感覚が、徐々に変化しつつある現れだだと思います。パナソニック社では、ユーザー調査を踏まえてこうした表現を調整しており、賞の名称の通りの努力が評価されています。

メディアの多様化や高度化が、ユーザーの理解力やわかりやすいという感覚に及ぼす影響は、非常に大きいものがあります。今後は、これまでに蓄積してきた表現のあり方だけでなく、常にユーザーの理解度を見極めながら表現形式を選ばなければならない時代になるのではないかと感じました。

今年是最終審査に残った5マニュアルがMOYにノミネートされました。5作品のうち2作品が産業部門であることはマニュアル業界全体の品質向上の結果だと思えます。ユーザーが製品に対して求める価値は「正しく安全に使える」情報だけでなく、「なぜそうなのか」「仕組みはどうなのか」という技術的な疑問にも応えてくれる情報です。これらを情報デザインによって提供するというTCの基本的な姿勢は一般部門も産業部門も同じです。

最終的にMOYにはカシオの電子辞書が選出されましたが、受賞の条件として部門を超え、商品カテゴリーを超えて参考にできる要素を多く有していることが決め手となりました。

電子マニュアルではwebマニュアルが大勢を占めました。改訂や改善がタイムリーにできることが利点です。QRコードによる情報提供が両部門で増えているのは、日常生活でも業務の現場でもスマートフォンが情報収集の手段として当たり前になってきていることへの対応として評価できることです。ただし動画による説明ではいずれの作品もスピード感到に欠ける印象を受けました。内容のわりに時間が長いのでかたたく（・・・・）感じます。

商品の価値はマニュアルがあつてこそ十二分に生かされます。制作者はマニュアルが持つ重要な役割を常に念頭に置いて研鑽を続けていただきたいと思っています。

今年の審査で特に印象に残ったことは、紙媒体の取扱説明書の他に電子媒体（動画マニュアル）をペアで用意された応募作品が増えたことです。取扱説明書の主要メディアが、紙媒体から電子媒体に代わる節目を迎えているような気がします。

分かり易さを高める「1動作1センテンス」により作業手順を文字で表すと膨大な分量になります。例え分かり易くなったとしても、ユーザーの取扱説明書を読む気を削いでしまつては役に立ちません。

しかし動画なら1ページを要する説明も数秒で表わす事も可能です。そして文字では伝えにくい“状態”も容易に伝えることができるのではないのでしょうか。

だが応募頂いた動画マニュアルに問題がないわけではありません。

一部に感嘆すべき完成度を持つ作品もありましたが、ユーザーの集中力を切らさず見て頂くための「見せ方」とナレーションによる「画像補完情報」などに、更なる改善の余地がある作品も見受けられました。

安全に関わる操作については、ユーザーが重大な情報を見逃さないようにするための「チェック機構」の付加など、今後皆様の斬新なアイデアを拝見することを楽しみにしています。なお、動画マニュアルを作成しても、紙媒体の添付は必要です。

今回初めて審査に参加しました。どれも作成した方の工夫やご苦労、かけられた時間と労力が伝わってくるマニュアルでした。

消費者としてマニュアルは、「読む気が起きる」→「わかりやすい」→「読み進める気になる」ということが大切だと感じています。どんなに良い内容でも、読まれなければ元も子もありません。読む気が起きるためには、表紙のデザインも重要です。例えば部屋の中で表紙が見えるように置いてあっても「嫌じゃない」マニュアルは、そう多くはありません。隠しておきたくなるようなものが大半なのは残念です。

デザインは、無駄がなく、内容は必要充分でありながら表現がシンプルであることを求めます。いくつかの作品に感じたのは文章の冗長さです。もっと内容を削らずに字数を減らせるのではないのでしょうか。デザインの美しさが、内容のわかりやすさと一体となって実現されているものを評価します。根拠

が明白で一貫性のあるメリハリのつけ方があるとわかりやすいですね。

紙媒体からQRコードで飛ぶウェブマニュアルがいくつかありましたが、現状では、ウェブ上の操作性、全体のデザイン（構造を含めた）に工夫の余地があると感じるものが多いと感じました。せまいスマホの画面で、目的の箇所に行き着くまでに、ストレスなく（最短のプロセスで）、わかりやすいものを期待します。紙をそのままウェブに置き換えるのではなく、ウェブならではのメニュー構造、操作性、表現の工夫など、更なる洗練を期待したいです。

消費者用製品の事故防止のためのウェブ上の動画や、点検作業者のためのウェブマニュアルはとても効果的です。製品に欠陥がなくても、長い間には点検とメンテナンスによって安全を保つことができるのですから、点検作業の安定的な質の確保にウェブ動画を使うことはとても有効と思います。今後もっと増えることを期待します。

鈴木 弘彦 独立行政法人 国民生活センター 商品テスト部 課長補佐

今回、初めてジャパンマニュアルアワードの審査に参加させていただきました。

マニュアルアワードの優秀賞に選ばれた13作のうち、HTMLやweb、動画を用いたマニュアルは4作とまだ少数派ではありましたが、これまでの「電子マニュアル」から呼称を変更した、これら「画面で見るマニュアル」が進化していることを今回の審査で実感することができました。

動画を活用することでユーザーにわかりやすい説明をすることや二次元バーコードを活用することでユーザーが必要としている情報に迅速にアクセスできるようにすることなど、マニュアル オブ ザ イヤーの受

賞作は今後の画面で見るマニュアルの指針となるのではないのでしょうか。また、必要に応じて随時マニュアル内容の改善が可能であることも画面で見るマニュアルならではの利点と言えます。

一方、紙マニュアルはまだまだ多数派であり、ノミネット作では使用者を適切に想定して、日常的に使用する別紙マニュアルを設定する、使用環境に配慮した体裁とするなどの工夫が見られました。

今後も紙、画面それぞれの特色を生かしたマニュアル、両方の特色を組み合わせたマニュアルのエントリーを期待しています。

今年最終審査に残ったものの中でマニュアル オブザイヤーを決めるにあたっては大変接戦でした。

元々使用者側が知っている人が多いものから、日本にはほとんどないものまで大変幅広であったこともあるし、工夫の仕方もさまざまでした。例えば検診車の中で使用するレントゲン装置のマニュアルは、検診車という特性から日々使用する人が変化する可能性があるのです。そのような場合を考慮したマニュアルになっていなければならないであろうし、電子辞書の場合は、学生から高齢者まで誰が使用しても、ある程度簡単に使用方法がわかることが重要となってきます。マニュアルとしての完成度を評価する、という

観点からは、見易さ、色の使い方、図の使い方等、一定の評価項目が浮かんでいますが、一番大切だと思われるのは、その商品の使用者の使い方を踏まえることだと考えます。

社内で外部のモニターによる評価を繰り返していますか。他の商品とマニュアルを比較して評価していますか。

特に今後は電子マニュアルが増えてくるのではないかと思うので、多くの電子マニュアルの応募をお待ちしています。また、高い評価となった商品のマニュアルとしての特徴を皆さん一度みて、さらに使いやすいマニュアルへの改善を期待しています。

マニュアル オブザイヤーの選定にこれほど時間を要したことは今までになかった。ノミネート作品がそれぞれにお手本になりうる良さを持っていたからである。電子ピアノのシートは覚えるのが困難なキーの機能割り当てを常に参照できるように、譜面台に置きっぱなしにしても主役の楽譜を邪魔しないサイズに情報を収めたユーザーの役に立つ作品、Styler (衣類リフレッシャー) のマニュアルは概念説明を冒頭に配置することによって読者の製品理解を促し、結果的にユーザーの安全と利便性を提供する優れた作品である。また、電流プローブのマニュアルはこれぞ技術者向けマニュアルの標準といえるようなバ

ランスの取れた作品、集団検診用X線システムのマニュアルは検診のたびに新しい読み手がマニュアルを開く確率が高いことを前提に作られており、狭い検診車内で邪魔にならず、丈夫で開きやすい装丁の作品であった。このように優れた作品ぞろいであったため審査に与えられた時間ぎりぎりまで議論が続いた。最終的にはカシオ計算機株式会社の電子辞書のHTMLマニュアルがマニュアル オブザイヤーに選ばれた。この製品は学生がターゲットユーザーであり、マニュアルはスマホで読まれることが多いという前提で作られている。ユーザーのニーズを考慮した、時代に合ったマニュアルであると評価された。

携帯電話の普及により、社会のあらゆるところで、QRコードが利用されるようになって来ている。QRコードは、1994年に株式会社デンソーの開発部門（現在は株式会社デンソーウェーブ）がバーコード以上の情報を読み取ることができるように開発した技術であり、特許権を行使しないことから、事業者等のWEBの閲覧、倉庫の在庫管理、受取りロッカーの開閉、申し込み、決済など様々な用途に使用されており、我が国だけでなく国際社会においても普及している。

ジャパンマニュアルアワード2019において、三次審査の対象マニュアル17件のうち、6件がマニュアルに印刷されているQRコードが審査の対象になっており、残りの11件の審査対象マニュアルのうち数件にも、マニュアル等に印刷されているQRコードによって、事業者のWEBなどに収納してある「電子化したマニュアル」を閲覧したり、「製品の使用方法を映像化したビジュアルな動画」を瞬時に閲覧するこ

とができるようになっていた。

また、審査の対象マニュアルには、マニュアルに印刷したQRコードだけでなく、製品本体への貼付を意図したものまで存在していた。QRコードの普及は目覚ましいものといえる。

パソコンによるWEBの検索は手間がかかり面倒であるが、製品本体にQRコードを貼付し、身につけている携帯電話でWEBを検索できれば、電子マニュアル、ビジュアルな動画を閲覧することができる。製品本体にQRコードを貼付することの効果は絶大なものがある。

今後のマニュアルは、QRコードの利用が常識化し、マニュアルだけでなく、製品本体にも貼付される時代になっていくだろう。これを機会に、ジャパンマニュアルアワードでは、QRコードが印刷又は貼付されているものについては、加味して審査するようにしたらよいのではないかと。

なかなか難しい審査でした。一般部門には家電製品やコンタクトレンズといった身近なものからマニュアルと思われるもの、全く新しい機器等があり、更に事業者向けの施工マニュアルがありました。産業部門には高度で専門的なものが並び、それらが分厚い冊子、あるいは一枚紙、電子マニュアル、そしてそれらを組み合わせたものと実に多様な形で表現され、優劣を付けるのは容易ではありませんでした。

QRコードを用いたウェブ動画が多いのには時代を感じましたが、必要な部分をスムーズにダウンロード

出来る、わかりやすくピンポイントでやることを示す、といったものが作業の効率化や間違いを防ぐことに貢献すると評価しました。

紙媒体のものは、無駄を省いた最小限のものでありながら十分な情報と見る者を疲れさせない工夫に長けていること、安全な使用に向けた配慮が深いことに注目しました。

それぞれのマニュアルにある工夫や発見は、業態を超えて参考にできるものと思います。協会の役割もますます大きいと感じました。

今年もマニュアルアワードの選考委員を担当致しました。まずは、本アワードに応募いただいた企業ご担当の皆様、さらに本アワードの企画実行と審査に携わった関係の皆様、心より御礼を申し上げます。選考委員には、今年から2名の新たなメンバーに加わっていただき、より多面的に意見交換を行うことができました。

個人的感想で恐縮ですが、審査を通じて「初物」が目立つようになったと感じています。もちろん三次審査で拝見するのが「初めて」であって、以前から応募自体は継続されていた作品もあるかもしれませんが、ですから、言い方はやや失礼かもしれませんが、三次審査に残るクオリティを備えた初物が増えたのだと思います。

常連といえる製品・業界の作品が徐々に減少して、

初物が目立つようになっている。このことは、TC自体の変化、TCを取り巻く環境の変化が反映していると考えます。これらの変化に関する詳細は、既にTCシンポジウム等で検討・発表されており、ここでは割愛させていただきます。一つだけ申し上げたいことは、TCが新しいステージに入ったことを実感できた審査だったということです。

マニュアルは、製品・サービスの使用説明に関するコミュニケーション手段として位置づけられていると存じます。今までとは異なるタイプの製品やサービス、今までとは異なる使用説明の伝え方、まだ見ぬ初物が参入できる余地は大いにあると考えます。

「品質の向上」という本アワードの趣旨を尊重しつつ、マニュアルの新たな形を模索し提案する場になることを期待しています。

カシオ計算機株式会社

CASIO



受賞作

■ 企業とマニュアル制作部門について

カシオというと、時計、電卓のイメージが強いかもかもしれませんが、電子楽器、電子辞書などの個人向け製品から、レジスター、プロジェクター、ハンディターミナルなど法人向け製品まで、幅広くご提供しています。マニュアルの多くは、コーポレートコミュニケーション部マニュアル室で担当しています。コーポレートコミュニケーション部は、宣伝や自社Webを統轄する役割を担っている部門であり、マニュアル制作部署がその中にあるのが特徴といえるかもしれません。その背景には、マニュアルを作るだけでなく、ユーザーへの情報発信として企画する目的があります。

■ 応募のきっかけ

ここ数年中断していましたが、だいぶ以前にマニュアルコンテストに応募していた時期がありました。環境の変化や、社内の組織再編もあり、2018年

に電子辞書のWebマニュアルで応募を再開しました。このときは「一般部門 電子 部門優良賞」を受賞させていただきました。受賞できたこと自体とても光栄なことでしたが、その際の評価結果に多くのヒントをいただき改善に繋がり、今年も応募することにいたしました。

■ 求められる今のユーザーファーストの視点

ここ数年、ユーザーがマニュアルに求めていることが変化してきていることを感じていました。製品購入後に、マニュアルを頭からじっくりと読むのではなく、知りたいことだけ、必要なときに参照するようになってきました。これまで紙を前提とした構成で制作をつづけてきましたが、一度、0から見直す必要があったのです。また、ライフスタイルが変わり、あらゆる情報が電子化・Web化され、使用情報もその流れに沿う必要があります。今までの紙マニュアルが違ったというわ

けではないでしょうが、今の時代のユーザーファースト視点は何か？がマニュアル制作の前提にあったのです。

■Webの活用

ユーザーの行動を考えた際に、やはりWeb化が大きなポイントになります。外出先からでも必要な情報にアクセスしやすいですし、紙よりも表現の幅を広げることができます。音声での解説や、動きの説明などは、紙では実現できないことです。昨年のTCシンポジウムのプログラムで「動画は若者だけのものではない。シニアの方こそが、普段からテレビに親しんでいる分、動画が分かりやすいと感じている傾向がある」と学ばせていただきました。今やWebでの情報提供は限られた人向けではなくなってきたことがいろいろなデータからも判断できたのです。もちろん製品特長やユーザー特性から、紙マニュアルとして継続するものもありますが、その場合でもWeb上で並行してより親切な情報発信が可能になるでしょう。

■受賞作のマニュアルの方針や背景など

今回受賞した電子辞書は、ユーザーとして学生さんが多く、頭からまるまるマニュアルを読まれない傾向が強い製品と言えます。もちろん使い方に疑問が生じる場合がありますので、メーカーとしては、その点をいかに素早く、わかりやすくできるかが重要でした。昨年のアクセス分析から、ほとんどの方がPCではなくスマホで閲覧することが分っていたので、今回のWebマニュアルは「スマホでの視聴を前提」として制作が進められました。作業過程でも担当者はPCではなくスマホ上で作業を進行しました。

■具体的な工夫点

• シンプルな構造

今どこにいるのか、次にどう操作すればよいのか、戸惑わないようなページスタイルを採用しています。迷子になることを回避するつくりがWebでは重要と考えました。

• マニュアル内全文検索を可能に

Webである以上、ユーザーは情報にたどりつく方法として「検索」を活用したいはずと考えました。メニューからたどって下層ページまで移動するよりもスピーディで直感的な仕組みです。



• 複数の検索方法に対応

従来の紙マニュアルであった「目次」だけでなく、「外観から」「目的から」探す入り口をトップページに設けました。



• 必要なトピックを動画に

今回は4本の動画を制作しています。マニュアルすべてを動画化するのではなく、「はじめに概要を知っていただく」「製品の基本操作」「問合せが多い機能」「マーケティング面から知っていただきたい機能」など必要性を吟味しています。演出面でも高校生の意見も取り入れ、速度やテロップ、音声などを調整しました。



• マニュアルだけではなく、前後の導線を改善

製品に同梱される印刷物にQRコードを採用し、入力の手間をかけずにアクセスできるようにしています。今や日常で頻繁に目にする便利な仕組みですが、読み取り後、マニュアル自体にたどりつくステップが従来はかなり面倒でした。今回は大幅にユーザーの操作を省く形に改善しています。この実現のためには、マニュアル制作部門だけではなく、Webを統轄する部門との調整や合意が必要でしたが、良い形になったと考えています。

導線の最適化施策 (QRコード)



• 解析タグ

Webマニュアルは、作ったら終わりではなく、作ったあとのユーザー意見や動向を反映していくことができます。紙マニュアルでのPDCAは、次期モデルや再版時など長い期間でしたが、Webでは、必要ならすぐ対応できますし、トライも簡単にできます。その部分の仕組みづくりはまだまだこれからですが、そのための解析ツール (Google AnalyticsとYouTube Analytics) を採用しています。

■ これからの課題

技術の進化にともない、今後もユーザー環境は変化していくでしょう。企業としてその時代に合わせた情報提供の形をとっていくのは重要ですが、サポートサイドであるマニュアルは、マーケティングサイドのように短期間で撤収できるわけではありません。ユーザー視点での最善を追及しながら、時代

を超えて（製品によっては数十年販売するものもあります）閲覧いただくマニュアルはどのような形が良いのか、リソースやコストをどう考えるか、まだまだ検討しなければならないと思います。

また、マニュアルに関わるスタッフのスキルアップも急務です。ユーザー行動のマーケティング知識やWebの知識、NMTなどの最先端技術の動向などを知ることも必要になっていくでしょう。

できることをしっかりと見極めながら、これからも製品価値を上げられるマニュアル作りに精進してまいりたいと思います。

一般財団法人テクニカルコミュニケーター協会ご案内

「つたわらない！」製品・サポート情報づくりに日々悪戦苦闘する皆様のお役に立ちたい！

◎テクニカルコミュニケーション技術は、つたえなければならぬ**製品・サポート情報**を、技術的に**正確**に、かつ読み手に**理解される**ように表現して、これを必要とする者につたえる事を専門領域とする。

◎さまざまな製品・サポート情報を現実の生活に即し**見えるかたち**にするのがテクニカルコミュニケーターです。

◎そして、テクニカルコミュニケーターが実社会で活動しやすく、ユーザー、顧客が製品やサービスに関する情報およびサポート情報との**快適なコミュニケーション**をできるように支えることが一般財団法人テクニカルコミュニケーター協会（JTCA）の役割です。

主な活動

● TC シンポジウム

全国規模のシンポジウムを東京（8月）と京都（10月）の2会場で実施

パネルディスカッション、特別セッション、展示、商品紹介、事例発表、学習、交流の機会を提供

● ジャパンマニュアルアワード

年度最優秀マニュアル（マニュアル オブ ザ イヤー）の選出と表彰

国際規格（IEC82079-1）に基づく評価

● 学術研究産学協同

TC 技術発展のため、多彩な調査研究活動を推進大学などの公的研究機関とも連携

研究成果の公開（研究論文の掲載や TC シンポジウムでの発表）による情報共有

大学向け TC 専門課程認定制度の創設と実施に向けた連携

● 海外交流推進

中国・アジア市場における製品・サポート情報の法令・規格を現地調査

欧州の TC 専門組織（ドイツ tekomp）と連携 tcworld の共催（京都）とドイツでの tcworld に参加 TC 国際円卓会議（2010 年開始、9 か国が参画）の推進

● 受託事業

マニュアル評価サービス（国内向け、海外市場向け）

● 標準規格策定（ガイドライン）

標準制作工程の検討

使用情報に関する国際規格の策定／改定（IEC82079 シリーズ）

カタカナ表記ガイドラインの策定／改定

TC 用語の国際規格の策定

● 人材育成事業

セミナーによる人材育成活動

新人、中堅、ベテランなどのレベル別セミナーの実施

最新の制作ツールなど、新しい技術動向を解説

● TC 技術検定

全国共通の基準でスキルの到達度を判定

3 級：テクニカルライティング試験（TW）

2 級：使用情報制作実務試験（MP）

2 級：使用情報制作ディレクション試験（DR）

● 国際 TC 検定試験

ドイツ TC 協会（tekomp）認定の TCTrainNet を活用した英語による学習と試験で国際的な TC 資格取得の推進

● 出版事業

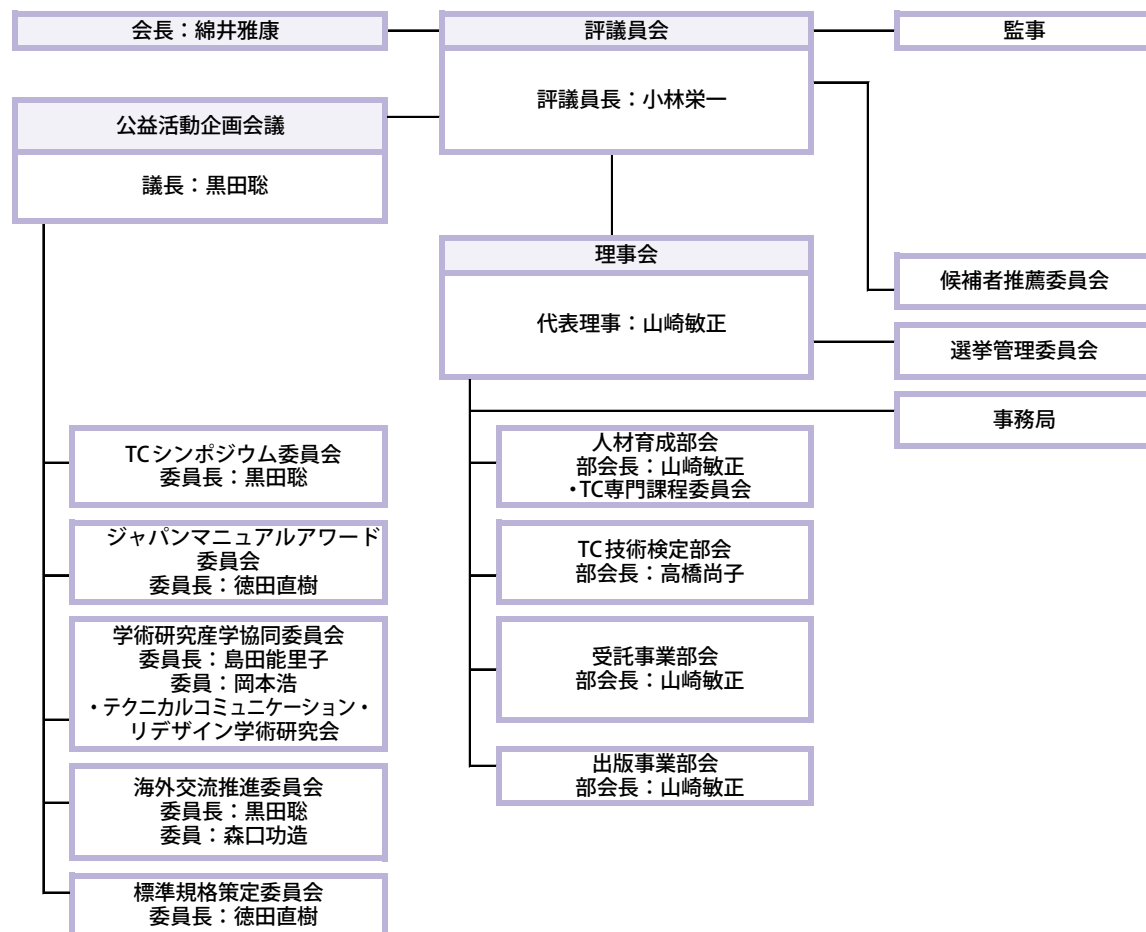
TC 技術検定受験用ガイドブック（TW、MP、DR）

使用説明関連の中国国家標準解説書

機関紙 Frontier（年 3～4 回発行）

一般財団法人テクニカルコミュニケーター協会

組織体制：2020年1月1日現在



Frontier (フロンティア) 第14号 2020年1月発行

発行：一般財団法人テクニカルコミュニケーター協会

〒169-0075 東京都新宿区高田馬場4-34-2 第一後藤ビル 101号室

Tel.03-3368-4607 Fax.03-3368-5087

<http://www.jtca.org>

発行人：綿井 雅康

編集責任者：山崎 敏正

企画／編集：TC協会出版部会

表紙・本文デザイン：菊池美範（株式会社エイアール）／吉光さおり（Kamigraph Design）

制作：株式会社パセージ

©Japan Technical Communicators Association 2020

JICA